

紙の本、紙の良さがある

アメリカで電子書籍が広がるきっかけとなった端末「キンドル」が日本でも発売されたこと、電子書籍の利用が広がりそうです。しかし、従来の紙の本にも、紙ならではの良さがあるといわれます。東京大学教授で脳科学者の酒井邦嘉さんは「脳科学的にみると紙の本には記憶を呼び出す『手がかり』が多く、注意が向けやすい」といいます。

脳科学者の酒井邦嘉さん

紙の本の良さは？

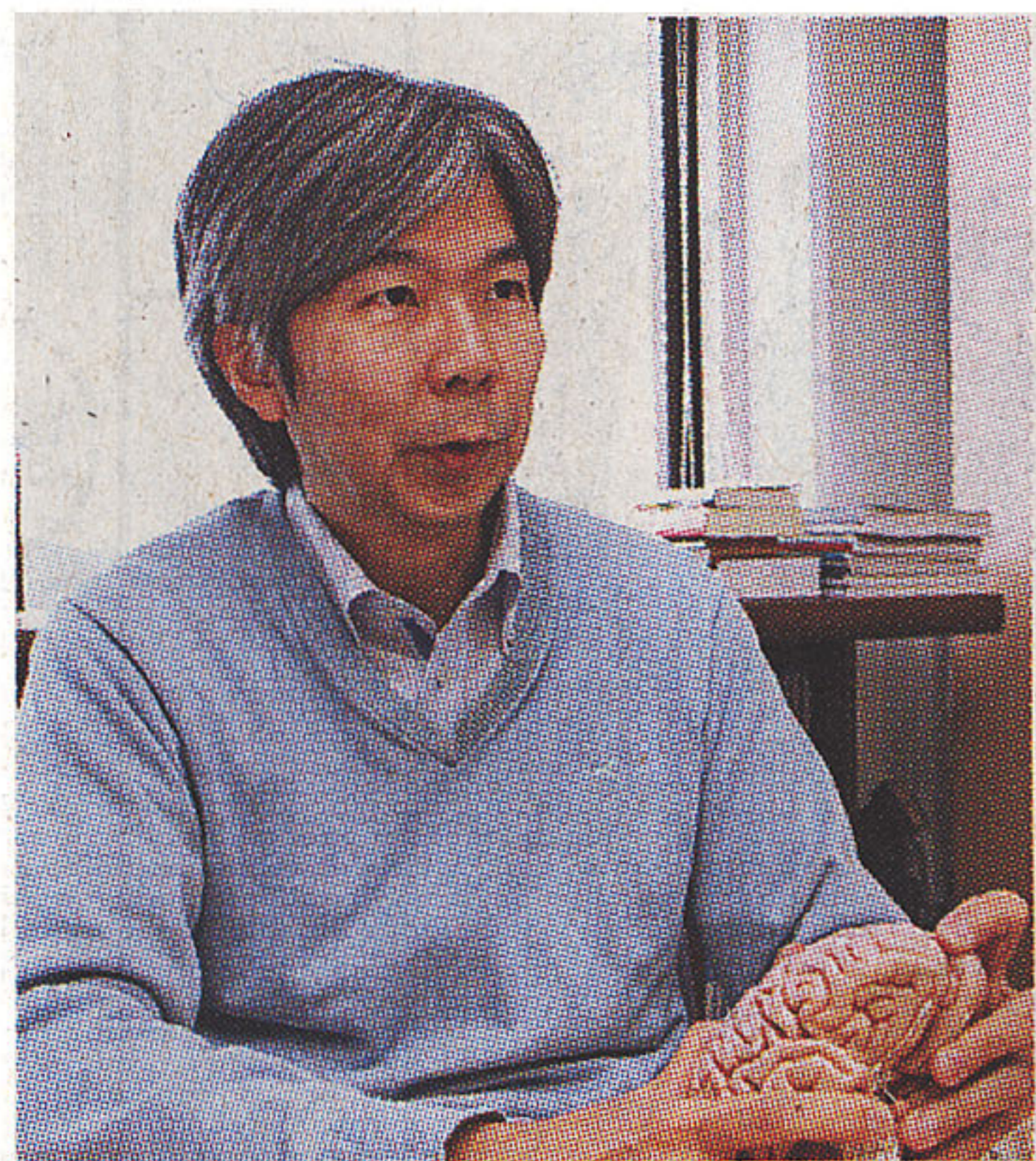
●記憶を呼び出す「手がかり」が多い

ふせん、しるし、ページの位置、書きこみ、折り目、紙の厚みやよごれ、においなど



イラスト・たなかさゆり

●記憶に残りやすい
●読み飛ばしにくい



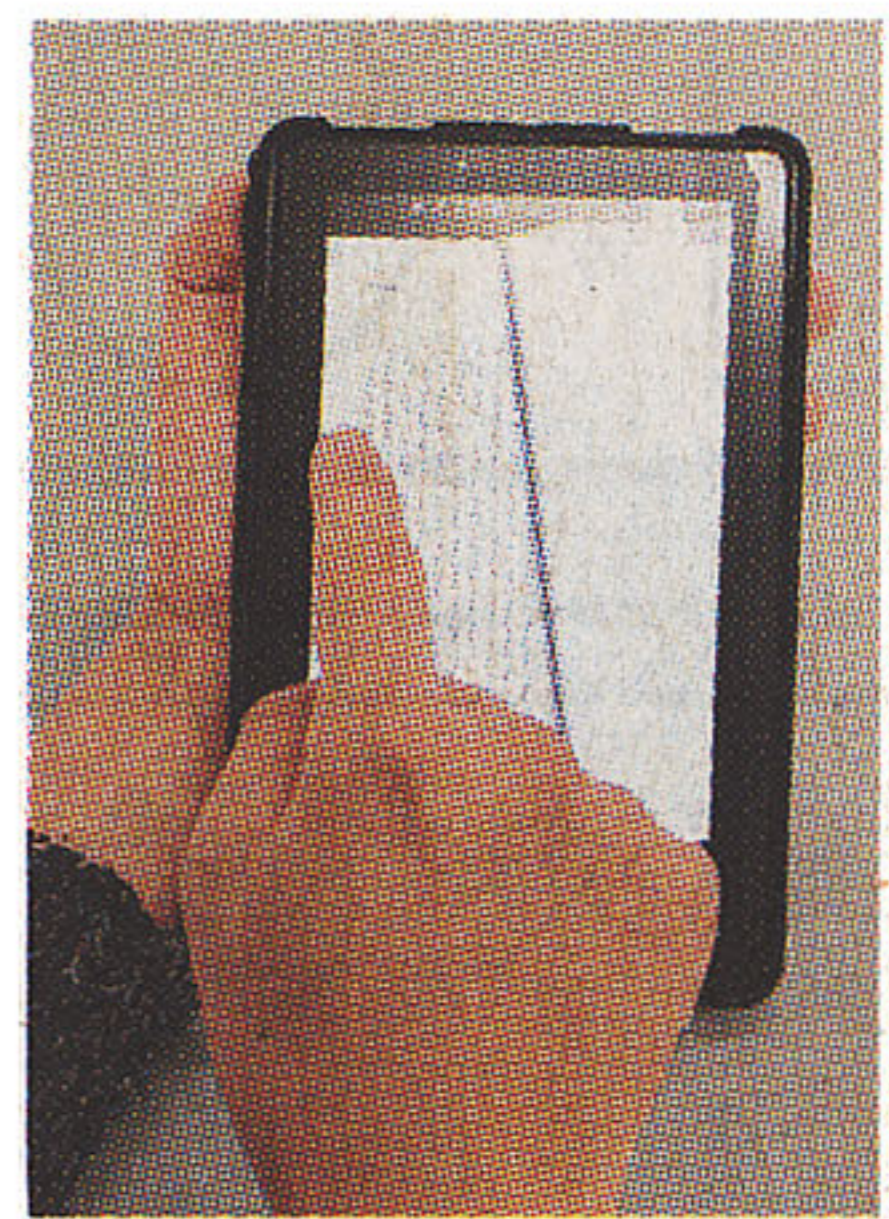
さかい・くによし 1964年生まれ。著書に『脳を創る読書』（実業之日本社）など。最近の著書に、脳の記憶から人間の心を考える絵本『脳でわかるサイエンス2 こころの冒険』（明治書院）がある。

手がかり多く記憶に残りやすい

紙の本と電子書籍の一番のちがいは「記憶を呼び出す手がかりの量」と酒井さんはいいます。書きこみができる教科書のよつなものの場合「手がかり」とは、ふせんやしるし、ページの右側や左

電子書籍にも、しるしを残すなどの機能は増えています。ただ、基本的

側などの位置、折り目や紙のよごれなどをさしませます。紙の本は、そういった手がかりを残しやすいそうです。



スクロールのようす。画面上で指を動かしてページをめくります

「子どもの記憶力は大人以上。『ページの右側に書いてあったな』とか『あの、書きこみをしたページに絵がのつていた』など、いろいろな覚え方ができます。私たちには、連鎖的な記憶のしくみが備わっているとい

な読み方は、画面上のスクロール（表示部分を動かすこと）です。先ほど

紙の本と電子書籍では、さわった感覚もちがいます。「電子書籍はスクロールという一つの動作で済みますが、紙の本では『これくらいのパージの量』という感覚があります。この感覚は、紙の大きさを厚さなどでもちがいます。記憶の手がかりが豊富なので、より頭に残りやすいそうです。

また物語などの本の中では、予期しないことが多く起きます。読書をする子どもは、現実で困ったことが起きたときに、「こう対処しよう」と想像力が働くそうです。

「情報を一気に取りこみたいときは、電子書籍が便利です。考えながら読みたいときは、紙の本が向いています。たとえば、この本はじっくり読んで本棚に置きたいから紙の本にしよう、気分転換に読む小説は電子書籍にしよう、などの使い分けができます。

じっくり読むには最適です

読書をするときに、脳の中ではどんなことが起きていてののでしょうか。文字は、まず私たちの

視覚にうつたえます。文章を読むと、黙読であっても脳の中で「音」に変わります。脳には、単語

を比べたりして、前後のページにもどって考えたり、ページとページを見比べたりしていくのです。「紙の本と比べて『受け身の読書』になりがちで、立ち止まって考える

「紙や電子にとどまらず、いまは選択肢の多い時代。どのように使い分けるといいか、自分で考えることから始めましょう」と酒井さんは話します。